

令和5年度

まちづくり推進部 雄物川地域局の方針書

局名	まちづくり推進部 雄物川地域局
局長名	土田 勉

1. 局の使命(ありたい姿)

地域の強みを発掘、育成し、地域に「元気」をつくり出します。

2. 局の抱える課題(現状)

- ・安全で安心な生活環境づくりと災害時における避難支援体制の基盤づくり
- ・少子高齢化の影響で、担い手が不足している地域活動に活気を取り戻す
- ・地域課題に対して解像度を高め、積極的に取り組もうとする意識の高い職員の育成

3. 今年度の『スローガン』

ここに暮らす皆が笑顔で活気のある地域をつくろう

4. 今年度の方針

- (1) 地域資源の適正な維持と有効活用による賑わいの創出を図ります。
- (2) 地区交流センター活動を支援し、市民参画によるまちづくりを推進します。
- (3) 市民サービスの向上のため、自ら考え行動できる職員・職場の実現を目指します。

5. 今年度の重点取組項目

(1)	実現したい成果	地域資源の適正な維持と有効活用による賑わいの創出
	取組内容	・道路、河川、公園、建物等公共施設の適正な維持管理と今後解体予定の老朽施設の協議を進めます。 ・中央公園や木戸五郎兵衛村、デイキャンプで賑わう河川公園を有効活用し、地域の元気を創出する事業を推進します。
(2)	実現したい成果	地区交流センター活動の支援と市民参画によるまちづくりの推進
	取組内容	・地区交流センター事業を主軸とした地域づくり活動を推進し、併せて防災機能、共助組織の拠点機能の構築・充実を図ります。 ・各種イベントや地域活動の回復を支援します。 ・避難行動要支援者の更なる把握と情報の精度を高め、災害時の避難支援体制の基盤づくりを推進します。
(3)	実現したい成果	市民サービスの向上のため、自ら考え行動できる職員・職場の実現
	取組内容	・職員個々の業務・接客スキルの向上に努め、親しまれる職場づくりを推進します。 ・職員の行動指針と業務改善を常に意識しながら業務を遂行します。 ・地区担当職員として地区会議への積極的な参加と、地域づくり活動補助金等の制度周知・支援に努め、地域コミュニティの醸成を推進します。

6. 方針に対する年度上期(4月～9月)の取組状況

(1) 地域資源の適正な維持と有効活用による賑わいの創出

- ・施設の適正な維持管理のほか、道路パトロールや住民等からの情報収集により迅速な維持補修作業を実施した。
- ・雄物川中央公園、及び民家苑の維持管理については、9月議会定例会で条例の一部改正の議決を受け、令和6年度当初からの指定管理者制度導入に向け取組を開始した。
- ・FM計画の推進を図るため、地域局内でプロジェクト会議を結成し、各施設の再編に向け協議を開始した。

(2) 地区交流センター活動の支援と市民参画によるまちづくりの推進

- ・センター長会議及び事務職員会議を毎月開催し、情報の共有化や個々のスキルアップを図った。また、定期的にセンター便りを発行し、特色ある生涯学習活動の実施や大沢の盆踊りなど地域に根差した行事の活動報告と事業の理解を深めた。
- ・4年ぶりに開催された「は・は・は祭」は、約5,000人の来場があり、とても熱気のあるイベントとなった。
- ・防災活動や空き家など地域課題解決に向けて、各地区で話し合いが進められている。また、地域資源を見直し、若い世代に誇れる財産として残していく活動も実施されている。
- ・避難行動要支援者名簿への登録希望について、未回答の203名宅を民生児童委員と連携し訪問及び追跡調査を行った。

(3) 市民サービスの向上のため、自ら考え行動できる職員・職場の実現

- ・研修を受講しやすい職場環境づくりのため、職員間のフォロー体制を整えた。また、研修で得た知識を課内ミーティングにより共有することで業務スキルの向上に努めた。

7. 年度下期(10月～3月)に向けた課題と取組方針【ギャップと対策】

(1) 地域資源の適正な維持と有効活用による賑わいの創出

- ・引き続き道路パトロールを徹底し、路面破損個所の早期発見と修復のほか、除雪作業に支障となりそうな箇所にも早急に対処するなど安心安全な体制で取り組んで行く。また、除雪路線における直営、委託路線を調整し、より効率的な作業に取り組めるよう委託業者と連携を密にして業務を推進する。
- ・雄物川中央公園、及び民家苑の令和6年度当初からの指定管理者制度導入に向け、関係する部署と連携しながら進める。
- ・地域局内でのプロジェクト会議を引き続き開催し、長寿命化施設や老朽化施設の再編について協議を重ねて行く。また、旧雄南のびる館解体工事実施設計業務委託の結果を受けて、今後の活用方法などを財産経営課と連携し進めて行く。

(2) 地区交流センター活動の支援と市民参画によるまちづくりの推進

- ・地区交流センター長会議や事務職員会議を今後も毎月開催し、各センターの特色ある行事や事業等の情報共有を図る。
- ・地区交流センターで実施される自主防災活動へ引き続き支援するとともに、未計画のセンターには実施を働きかける。
- ・自主防災意識を高めるための広報活動のほか「安心安全メールの登録」や「防災ラジオ」の活用促進など引き続き周知する。
- ・2月に開催予定の「木戸五郎兵衛村inかまくら」に向けて、関係各課と連携し観光客へのおもてなしと地域の元気を創出する。

(3) 市民サービスの向上のため、自ら考え行動できる職員・職場の実現

- ・必要な情報と知識を職員間で共有しながら、引続き来庁者への対応と業務の改善に取り組む。
- ・各地区交流センターで実施している地域の魅力ある活動を引き続き支援していく。

8. 総括(取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】)

(1) 地域資源の適正な維持と有効活用による賑わいの創出

- ・地域局内に「FM計画プロジェクト会議」を立ち上げ、管内における長寿命化施設及び老朽化施設について、目標管理シートをもとに現状、及び今後の進め方を確認した。対象施設について、引続き市全体計画との整合性を保ちながら検討を続けていく。
- ・地元関係者による実行委員会を主体に、各種団体の協力を得て実施された「かまくらin木戸五郎兵衛村」では、台湾やタイ等の国外、また国内では関西圏からの来客も多く、コロナによる移動制限解除による影響や大阪でのPRイベントの効果が感じられた。今後、中央公園及び木戸五郎兵衛村の年間を通した利用促進方法を探り実行に移していく。

(2) 地区交流センター活動の支援と市民参画によるまちづくりの推進

- ・毎月開催のセンター長会議や事務職員会議を行うことで、情報共有や職員のスキルアップが図られ、より円滑な事業運営につながった。
- ・今年度新たに5地区交流センター共催による「防災講演会」を行った。地域一体となった防災意識の向上を図るため、今後も引続き事業を推進していく。

(3) 市民サービスの向上のため、自ら考え行動できる職員・職場の実現

- ・地区担当職員の、地区交流センター事業への参加実績が、昨年度67人に対し49人と少なかった。
- ・地区会議や地区交流センター運営協議会への積極的な参加により、引続き地域課題解決に関する意見要望を吸い上げ、ハード事業等の活用実績が高められるよう努めていく。